



大学院だより

大学院修了式

2018 年 3 月 15 日に大学院修了式が、123 期生卒業証書授与式と合同で行われた。例年通り新館血脇記念ホールにおいて、123 期生卒業証書授与式に先がけての実施となった。35 名の大学院修了者達は、学部学生やそのご父兄の前で、堂々と入場し模範となる立派な姿を印象づけた。修了式では 35 名の修了者の代表として生理学講座の小島佑貴大学院生に櫻井薫大学院研究科長から修了証が授与された。4 年間の度重なる苦勞を乗り越え、ゴールインした修了者 35 名全員がその安堵感と達成感からか笑顔に溢れたとても良い表情を見せてくれた。その後、新館 11 階教室に移動し、一人ひとりに修了証が授与され、矢崎秀昭同窓会長から、同窓会長賞が授与された。



修了式を終え、笑顔溢れる大学院修了者

同窓会長賞

矢崎秀昭同窓会長から、同窓会長賞が小島佑貴大学院生と吉川幸輝大学院生に授与された。



吉川大学院生授与

小島大学院生授与

大学院修了にあたって

「大学院を修了して思うこと」

生理学講座大学院修了 小島佑貴

大学院入学式するとき、講座の主任教授であった田崎雅和先生より「最高学府へようこそ」というお話があったことを昨日のように覚えております。当時は、3年ぶりに大学へ戻った安堵感より、大学院を卒業できるかどうか不安を感じておりました。生理学の研究などした経験はありませんでしたし、多くの優秀な先輩でさえ苦労されながら学位

論文を仕上げてもらえる姿をみていたからです。入学してから4年経ち、何とか卒業でき学位も授与して頂いて思うことは、まだまだ自分が未熟であるということです。2年間徹夜で研究しても、3回も海外へ学会発表してdiscussionしても、研究者として一歯科医師としてはまだまだ足りないことを実感させられました。大学院生活では、その足りない部分を少しでも解消しようとして、また課題を突き付けられる、そんな毎日でした。

大学院中は象牙芽細胞の電気生理学的特性の解明について研究を行いました。最終的には電気生理学的特性が象牙質の石灰化につながるという結果まで導き出したことは非常に嬉しかったのですが、そのメカニズムの解明までには至りませんでした。研究の大変さを感じつつ、どれだけ先人たちが苦勞して知見を積み上げて来たのか、日々そんなことを考えながら顕微鏡を覗き込んでおりました。研究を一から教えて頂いた生理学講座の先生方、講座で研究されていた先輩方には心より感謝しております。研究の指導のみならず先輩方に、夜遅くまで臨床や進路について相談にのって頂いたことは私にとってかけがえのない思い出になりました。後輩たちには自分の研究のサポートまでして頂くこともあり、常々自分は恵まれているなど感じておりました。

大学院在学中には歯科麻酔学講座で麻酔研修もさせて頂きました。あまり前例のないことで、多くの先生方にご迷惑をおかけしながら4年間研修をさせて頂きました。大学院4年目には歯科麻酔認定医まで取得することができ、充実した臨床経験も積むことができました。先生方の手厚い御指導と得られた経験から、臨床と基礎をつなげる思考をもてるようになりました。

今後も研究者としても臨床医としても高みを目指して日々を過ごしていく次第です。

最後になりましたが、これまで御指導してくださいました井出学長や櫻井研究科長をはじめとする多くの先生方ならびに職員の皆様に、心から厚く御礼申し上げます。

「大学院修了にあたって」

歯周病学講座大学院修了 吉川幸輝

自らの研究が将来の研究、臨床に生かされ、延いては社会貢献につながることを強く希望し、大学院に入学しました。

大学院では、微生物学講座との共同研究として石原教授にご指導いただきました。私の研究テーマは「*Treponema denticola* に対する *Porphyromonas gingivalis* Hgp44 の付着ドメインの検討」でした。代表的な歯周病原細菌である *P. gingivalis* のジンジパ

インである RgpA は、プロテアーゼドメインおよび赤血球凝集/付着ドメインによって構成されています。この赤血球凝集/付着ドメインの一部の Hgp44 において、*T. denticola* との付着に関わる主たるドメインの領域を特定いたしました。今後、合成ペプチドを作成し、付着に関与する領域をさらに細かく検討する予定です。将来的には、各種歯周病原細菌の付着、共凝集の阻害による歯周病の新たな標的治療や予防に応用できると期待しております。本研究の遂行にあたり、実験の組み立て方や基本的実験手技などを事細かに指導して下さった、微生物学講座と歯周病学講座の先生方に心から感謝申し上げます。また、外資系企業との研究も歯周病学講座の研究として経験させていただきました。自分たちの研究結果がエビデンスの一つとなるのは、非常に希少な経験でした。このような機会をくださった、歯周病学講座の齋藤教授には感謝を申し上げきれません。

学会発表は主たる発表者として、海外で 2 回、国内で 4 回行わせていただきました。海外発表では、歯科に関わる分野の多くの研究者、臨床家と交流する機会を得ることができ、様々な観点、独自性のある意見を拝受することができました。これらの学会活動をするにあたり、学内のリサーチアシスタントや顎骨疾患プロジェクトの大学院研究助成に選出していただくことで、充実した研究活動を行うことができました。思いがけず、修了時には同窓会長賞をいただくことができました。齋藤教授、石原教授には心より感謝を申し上げます。また、学生会の活動において、口腔科学研究センター、大学院事務の皆様にも大変お世話になりました。もちろん家族からの支えがあってこそその 4 年間だったと実感しております。

最後になりましたが、これまで御指導してくださいました井出学長や櫻井大学院研究科長をはじめとする多くの先生方ならびに関係各位に、心から厚く御礼申し上げます。

大学院修了者懇親会

大学院修了者諸君の主催で、指導の先生方との懇親会が昨年同様西棟ラウンジで催された。井出吉信学長、櫻井薫大学院研究科長のほか多くの先生方から大学院修了者の新たな門出に対して、この4年間の努力は必ず将来報われること、歯科医学研究に精通した高度な専門職業人として誇りをもつこと、歯科界のリーダーとなって牽引してほしいこと、仕事に使命感をもって、楽しんでほしいことなどの激励のお言葉があった。また、論文は研究への熱意が冷める前に早めに必ず投稿すること、投稿時の査読者とやり取りは粘り強くやることなど現実的なアドバイスもあった。

軽食とノンアルコール飲料による懇親会であったが、熱いトークが繰り広げられた。長くて短い4年間、指導の先生方からの厳しい要求に忍耐を強いられたことも多々あったでしょう。懸命に取り組んできたことからこそ、得られた感動もあったでしょう。築き上げられた数多くの熱い師弟関係が、これからも末永く続くことが感じられるひとときであった。



大学院修了者懇親会出席者一同

2018 年度大学院歯学研究科入学式

2018 年 4 月 3 日午前 10 時より水道橋校舎本館 13 階第 2 講義室において、2018 年度大学院歯学研究科入学式が挙行された。福田謙一学生部長の開式の辞に続き、齋藤淳教務部長による新入生 37 名の紹介が行われた。そして、新入生代表の神保泰弘大学院生（歯科麻酔学講座）に井出吉信学長から入学許可証が授与された。続いて井出学長から最高学府に進学した者としての責任と使命感をもって、4 年間の研究に真剣に取り組んでもらいたい、そして 4 年後に得られた専門知識はその後の人生に必ず重要になるなどの訓示があった。続いて櫻井薫大学院研究科長から研究は早期に方向性を決め、倫理申請など早め早めに進めること、3 年次には進捗報告会があることなどの現実的なご指導があった。次に、新入生を代表して神保泰弘大学院生が宣誓し、入学式は終了した。

閉会后、櫻井大学院研究科長から一人ひとりに入学許可証の授与があり、履修に関するオリエンテーションが行われた。



井出吉信学長からの訓示

2018 年度大学院新入生 学外総合セミナー開催

2018年5月17日(木)～19日(土)の2泊3日で、恒例の新入生学外セミナーが開催された。会場は昨年と同様、富士山を望む「御殿場高原ホテル・時の栖 Hotel Brush up」であった。第1日目は、口腔科学研究センターの山口朗客員教授から、文部科学省から私立大学研究ブランディング事業として助成を受けて遂行されている顎骨疾患プロジェクトについて、実施体制や現状などについて説明があった。続いてUCLA教授の西村一郎客員教授から「The anatomy of discovery: Cognitively guided STE(A)M education」と題しての講演があった。発想や発見には様々な方向性からの思考が必要であり、特に人と人とのコミュニケーションが重要であるなど、研究にこれから取り組んでいく大学院生にとって、大変興味深いお話があった。講演後は、活発に質疑応答が交わされ、大学院生にとって大変有意義な時間となった。第2日目は、恒例の英文学術雑誌に関する発表会があり、岡野日奈大学院生、松崎勇佑大学院生、中根咲大学院生、森田訓子大学院生の4名が優秀賞に選定された。第3日目は、「私たちは何のために研究するのか」という課題についての討論と澁川義幸教授による研究への取り組み方や研究をする上でのルール等研究倫理に関する非常にわかりやすい講義があった。大変充実した3日間であった。



大学院新入生学外セミナー参加者一同



西村客員教授による講義



英文学術雑誌に関する発表会における大学院生同士による熱心な討論



「私たちは何のために研究するのか」という課題についての大学院生の熱い討論

「大学院学外総合セミナーを終えて」

老年歯科補綴学講座 森田訓子

今回参加させていただいた大学院学外総合セミナーでは、英文学術誌の発表、先生方の講義、そしてグループ討論という課題を通して多くの経験をさせていただきました。

事前課題とされていた学術誌の発表では初めて英語論文に触れ、内容を理解することはもちろん、研究の意図を考えることの重要性を学びました。そして、論文に対する自分の考えを的確なニュアンスで相手に伝えるというのは本当に難しかったです。同期の大学院生それぞれが選んだ論文はどれも興味深いものばかりでしたし、互いの発表を聞き核心を突いた質問をする皆の姿が、自分への良い刺激となりました。

先生方の講義では、実際の経験を交えながら研究とどう向き合っていくのかについて貴重なお話をしていただき、これからの4年間の過ごし方について深く考えさせられました。今までは学問を修めるということに対し一生懸命学ばなければという漠然とした

目標しかなかったのですが、先生方の研究に対する思いに触れて、指針となる何かを得たように感じます。

グループ討論では、「私たちはなぜ研究するのか」という題を与えられ、限られた時間ではありましたが4年間を共にする皆と活発に意見を交わすことができました。1つの題に対し全員の共通認識を得るのはとても難しく、息詰まることもありましたが、その後に飲むビールはとてもおいしかったですし、お風呂は本当に気持ちよかったです。これから先も同じ大学院生として互いに助けあい、成長していけたらと思います。

この3日間で自分の未熟さを痛感すると同時に、まだまだ伸びしろがあるという希望も持つことができたことはとても大きな収穫でした。私の大学院生活にはもちろんのこと、歯科医師人生にも影響を与えるものになったと思います。また、英文学術誌の発表にあたって多くの先生や院生の先輩からアドバイスをいただき、自分がとても恵まれた環境にいることを再確認しました。そして、この大学、この講座に残ってよかったと改めて思いました。ここで得たモチベーションをこれから先も失うことなく、目標をもって大学院生活を送っていきたいと思います。

「大学院学外セミナーに参加して」

歯周病学講座 中根 咲

今回の大学院新入生学外総合セミナーでは、講義や英文学術誌の発表、グループディスカッションを通して有意義な3日間を過ごすことができました。

西村一郎客員教授のご講演では、既知の情報を収集する“勉強”を通して、未知を解明しようと“研究”することの重要性を学びました。また、研究に必要なのは“発見”の意味を持つ“Discovery”ではなく、“新しく採り入れる”という意味を持つ

“Innovation”である、というお話も心に残っています。それに加えて、実際に経験された研究の楽しさや苦勞についてのお話から、沢山の失敗が大きな成功に繋がるということを知り、これからの研究への期待が膨らみました。また、生理学講座の澁川教授の研究倫理についてのご講義は、これから研究を始めていく者として恣意的な不正をしてはならないと身が引き締められました。

英文学術誌の発表は、論文検索の方法すらわからなかった私にとって、大変勉強になる経験でした。学外セミナーの1か月ほど前から論文を読みはじめ、内容を理解する段階では基礎知識が足らず、学部生時代の生物の教科書がすごく参考になったことから、

新しい知識を取り入れるだけでなく、過去に学んだことをもう一度復習することも大切だと感じました。スライド作りでは、スライドの構成に苦心し、わかりやすいプレゼンテーションをすることの難しさを知りました。当日の発表では、質問や意見が飛び交い、講座を越えた知識の補填ができました。自分の分野以外の内容でも真剣にメモをとる同期の姿を目の当たりにし、このような仲間が集まって学べることの喜びを感じました。

グループディスカッションでは、“私たちはなぜ研究をするのか”というテーマについて、グループに分かれて討議しました。KJ法を用いて議論を進め、“社会貢献と自己研鑽のため”という私たちなりの結論を出すことができました。グループによって結論は様々でしたが、疑問を解決して人の役に立ちたい、という思いは共通していました。年齢や出身大学も異なるメンバーですが、同じ志を持つ仲間であるということを改めて感じ、いい刺激を受けることができました。

この3日間で得たものは、これからの大学院生活において重要な礎になると思います。ここで集まった皆でお互いを高めあいながら、充実した4年間を送っていきたいです。このような機会を与えていただき、ありがとうございました。

編集後記

今年も35名の大学院生が代え難い経験と誇りを持って、高度な専門職業人として立派に巣立って行きました。授与された修了証を手にし、達成感に満ちあふれた笑顔でお互いの検討を讃えていました。123期学生の卒業式に先だって行われた修了式では、学生部長の佐藤 亨教授をはじめ関係各位のきめ細やかなご配慮により、滞りなく式を終了することができました。大学院関係者一同、皆様方に感謝しております。指導者の先方との懇親会では、やり遂げた各師弟間の固い絆が多く生まれました。

代わって37名の新入大学院生が夢と希望を持って、入学して参りました。今年の御殿場の学外セミナーは、晴れた日がなく富士山は望めませんでした。西村教授の貴重な講義とともに活発な討論が行われました。研究に真剣に取り組みたいという意欲的で熱心な態度は、今後が楽しみであります。(福田 記)